

令和2年度

丹沢大山ボランティアネットワーク
活動報告書

目 次

I 丹沢大山ボランティアネットワーク事業報告

- 1 丹沢大山登山環境意識調査結果報告書
- 2 瓦版の発行

II 会員団体活動掲示板

神奈川県勤労者山岳連盟
横浜わらび山の会
かながわフィールドスタッフクラブ
神の川ヒュッテ管理委員会
北丹沢山岳センター
山綾会
西丹沢の自然にふれあう会
蛭ヶ岳山荘委員会
みろく山の会
野生動物救護獣医師協会神奈川支部
町田グlaus山の会
丹沢自然学校
野生動物救護の会
足柄丹沢の郷ネットワーク
丹沢環境推進会議

III 世話人会の活動報告

I 事業報告

- 1 丹沢大山登山環境意識調査結果報告書
- 2 瓦版の発行

※ 新型コロナウイルス感染症拡大を巡る社会情勢等を踏まえ、令和2年度は、「丹沢大山水質調査」及び「池の外来種調査と生き物の観察」は実施しませんでした。

丹沢大山登山環境意識調査結果報告書（概要）

調査目的 丹沢大山地域への入山、登山にかかわる利用の実態、目的、自然環境保護、保全意識などの把握をするため。

調査期間 令和元年6月25日～11月30日

発行 令和2年1月

調査方法 調査、アンケート配布活動参加協力団体

NPO法人丹沢自然学校、NPO法人四十八瀬川自然村、
NPO法人伊勢原森林里山研究所、町田グlaus山の会、
丹沢ゴミ調査会、NPO法人北丹沢山岳センター
に協力して頂きました。

アンケート調査活動場所

新松田駅、渋沢駅、秦野駅、西丹沢・秦野ビジターセンター、
ヤビツ峠に於いて各ボランティア団体が不定期に活動を行いました。

アンケート用紙と回収箱設置場所

西丹沢・秦野ビジターセンター、新松田駅前お休み処「つむGO」
大山観光案内所、伊勢原観光案内所、ヤビツ峠公衆トイレ
日向薬師バス停、鍋割山荘、尊仏山荘、みやま山荘、蛭ヶ岳山荘

回収箱等設置協力団体

丹沢ゴミ調査会、NPO法人丹沢自然学校、NPO法人四十八瀬川自然村、
NPO法人伊勢原森林里山研究所、NPO法人北丹沢山岳センター
町田グlaus山の会、等に協力して頂きました。

丹沢大山登山環境意識調査結果報告書の全文については、神奈川県自然環境保全センターのホームページに掲載しています。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4y/03shinrin/boranetto.html>

丹沢ボラネット瓦版

2020年7月号 No.108



↑写真 鍋割山稜 春 ブナ原生林の芽吹き



↑写真 ニホンジカ 新型コロナウイルス感染危機で生息数の変化は？(表尾根塔ノ岳近く)

令和2年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会

写真→
丹沢大山登山環境意識
調査アンケート回収箱
(新松田駅前)

令和2年度事業は
新型コロナ感染症対策のため
登山環境意識調査まとめ
が主な事業になります。



令和二年度総会は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、初めての電子文書とメールでの開催となりました。今回瓦版は、この総会を記録に残すため重要資料を載せます。

この新型コロナ感染症危機年度のボラネット活動のおよその様子が県民にも次世代にも伝われば幸いです。

総会案内

令和2年3月26日

丹沢大山ボランティアネットワーク構成団体 御中

丹沢大山ボランティアネットワーク

世話人会代表 小林昭五

令和2年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会の開催について (通知)

平素より丹沢大山ボランティアネットワークの活動に格別のご理解とご協力を頂き厚くお礼を申し上げます。

さて、上記の件について新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、電子文書とメールでの開催することと決定いたしました。

丹沢大山ボランティアネットワークも積極的に感染拡大防止のため協力行動をしたいです。

どうか電子文書とメールでの総会をご理解ください。

なお、監査等に関しては関係者が協議して行います。

1 総会日程

4月17日(金) 総会原案提出

4月22日(水)まで 質疑、意見、回答

4月23日(木)～4月26日(日) (午前中まで) 賛否表明

4月26日(日) 午後決定、総会終了

2 議題

(1) 令和元年度事業報告・決算報告

(2) 令和2年度事業計画・予算(案)

(3) 世話人会の改選

(4) その他

①水質調査・夏休み親子自然探検隊の交通費等について

総会資料 (※資料の一部を赤字又は青字に変更しております。)

令和2年度事業計画(案)

1 総会

実施日 令和2年4月26日(日)

場 所 神奈川県自然環境保全センター レクチャールーム

内 容 令和元年度事業・決算報告及び令和2年度事業計画・予算案ほか

2 世話人会

実施日 年4回(6、9、12、3月の第1水曜日)

場 所 神奈川県自然環境保全センター(ワーキングルーム)

出席者 世話人及び自然環境保全センター自然保護課職員

内 容 事業の企画運営ほか

3 活動事業

(1) 水質調査

実施日 令和2年5月

場 所 丹沢大山地域 水場21箇所

内 容 大腸菌等10項目の水質検査

(2) 夏休み親子自然探検隊(後援)

実施日 令和2年8月2日(日)

場 所 山北町皆瀬川

内 容 公募県民親子を対象に丹沢の生き立ちや水の大切さを学習する

(3) 講演会

実施日 令和2年6月20日(土) 10:00~12:00
場 所 神奈川県自然環境保全センター レクチャールーム
内 容 「丹沢大山の動物について」(仮)
講 師 日本哺乳類学会員 青木 雄司 氏

(4) 外来種調査

実施日 令和2年10月24日(日)
場 所 神奈川県自然環境保全センター自然観察園
内 容 池の外来種調査

(5) 丹沢大山登山環境意識調査(前回平成27年度)製本

内 容 昨年度の意識調査の結果をもとに製本

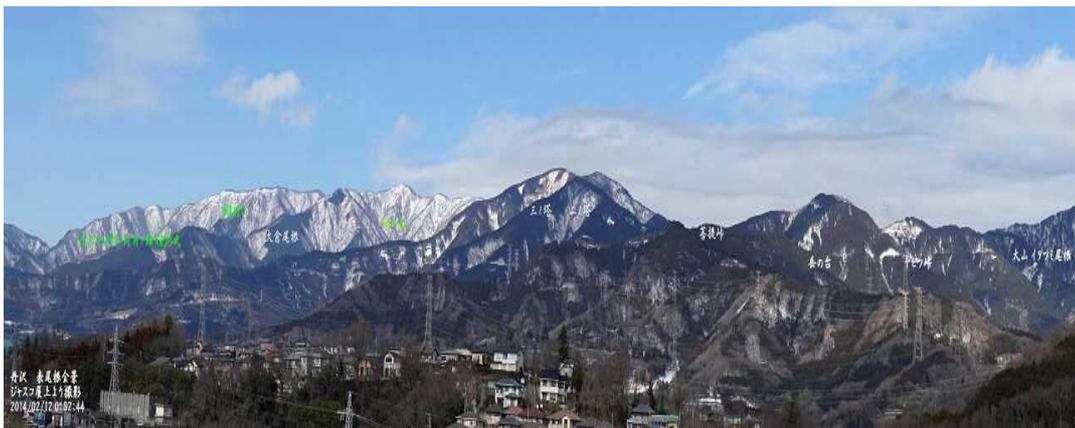
※ (1)~(4)については、新型コロナウイルス感染症をめぐる社会情勢を踏まえ、中止等の可能性があります。

4 広報

- (1) 瓦版の発行
- (2) 活動報告書の作成
- (3) ホームページの更新

5 関係会議等への出席

- (1) 緑を育む集い実行委員会
- (2) 丹沢大山自然再生委員会



↑ 写真丹沢中央部と表尾根全景

左上雪山から(丹沢中央部 同角ノ頭 檜洞丸) 鍋割山 大倉尾根 塔ノ岳 三ノ塔 二ノ塔 菩提峠 岳ノ台 ヤビツ峠 大山(イタツミ尾根)

令和2年度予算(案)				
1 収入の部				
科目	予算 (A)	前年度予算額 (B)	比較 (A-B)	備考
会費	64,000	64,000	0	2,000円×30団体+未払2団体(4,000円)
助成金	870,000	850,000	20,000	丹沢の緑を育む集い実行委員会 水質調査、登山者意識調査、夏休み親子自然探検隊、外来種駆除活動、講演会
参加費	60,000	46,000	14,000	2,500円×24組(大人1,500円、子ども1000円)
繰越金	11,802	2,277	9,525	
合計	1,005,802	962,277	43,525	
2 支出の部				
科目	予算 (A)	前年度予算額 (B)	比較 (A-B)	備考
水質調査	260,000	260,000	0	交通費補助、採水ビン送料、検定料等
登山者意識調査	120,000	220,000	▲ 100,000	製本代等
夏休み親子自然探検隊	360,000	370,000	▲ 10,000	バス借上げ代、講師謝礼、保険料、交通費補助、資料代、諸器具・消耗品費
外来種駆除活動	70,000	10,000	60,000	講師謝礼、資料代、諸器具・消耗品費等
講演会	50,000	30,000	20,000	講師交通費、資料代等
世話人会運営費	53,000	30,000	23,000	交通費補助、通信費等
丹沢大山自然再生委員会会費	10,220	10,216	4	会費、振込手数料等
予備費	82,582	32,061	50,521	
合計	1,005,802	962,277	43,525	

水質調査・夏休み親子自然探検隊(後援)等の交通費等(案)について

次のように改定します。

1 電車バスの人の交通費 → 実費を負担する。(車同乗するまでの実費)

2 車出す人の交通費 → 3,000円を負担する。

水質調査については一箇所最高で2人参加分負担する。

理由 転落、落石等の危険があるので安全を考慮しました。

水質調査で今までと変更された点は以下2点です。

3,000円 → 実費 (車を出す人は3,000円→3,000円)

1人分援助→最高2人分まで(安全や作業のため2人行動)

参考 今までの水質、親子の交通費支給金額の様子

・水質調査 1箇所につき3,000円 2カ所なら6,000円

・夏休み親子自然探検隊 準備を含め1回参加3,000円、2回なら6,000円

車出す人は別に1回2,000円がプラスされます。

3 遠隔地水汲み徒歩について等は

令和2年度の世話人会で話し合いたいです。

(今まで考慮していない)

4 水質調査や夏休み親子自然探検隊等の交通費等に関しては

親子後援もボラネットの予算の内での支出事業なので1、2で同じにします。

(今までそれぞれ援助の内容が異なっていた)

<今後の課題>

水質調査や夏休み親子自然探検隊等の事業は、県とのパートナーシップのもと取り組んでいる事業です。

ボラネット世話人会は、定年延長があり、再任用もある現在、共同事業を支えるボラネットの各団体が高齢化し解散する団体や弱体化する団体がある中で、どのような支援を行えるかが課題になっています。

丹沢大山の環境保護のため、事業が今後先細りでなく、持続的にどうしたら発展させる事が出来るか、大局的視点に立って考えたいと思います。

今まではボランティア各団体の献身的努力の中で何とか支えられてきました。

そのような環境の中で次年度世話人会では参加しやすい環境を整えたいです。

私達は今後も水質の様子や研究材料を県民の皆様へ伝えていきたい希望があります。

当面の課題は一軒屋避難小屋前水場等の難関な場所をどうするか考えたいと思います。

「水質調査は良い事業ですね」と褒められ、もっと丹沢の水質のデータを知りたいなどの言葉を多く頂いています。このような言葉で励まされます。

丹沢大山ボランティアネットワーク参加団体一覧

	団体名	
1	神奈川県勤労者山岳連盟	
2	横浜わらび山の会	
3	神奈川県山岳連盟	
4	神奈川県自然保護協会	
5	かながわフィールドスタッフクラブ	
6	神の川ヒュッテ管理委員会	
7	北丹沢山岳センター	
8	山綾会	
9	四十八瀬川自然村	
10	自然塾丹沢ドン会	
11	丹沢けものみちネットワーク	
12	丹沢ゴミ調査会	
13	丹沢自然保護協会	
14	丹沢ブナ党	
15	西丹沢の自然にふれあう会	
16	蛭ヶ岳山荘委員会	
17	みろく山の会	
18	野生動物救護獣医師協会神奈川支部	
19	かながわ野生動物サポートネットワーク	
20	町田グラウス山の会	
21	ハローウエインズ	
22	伊勢原森林里山研究会	
23	美登会	
24	丹沢自然学校	
25	野生動物救護の会	
26	足柄丹沢の郷ネットワーク	
27	湘南自然観察クラブ	
28	伊勢原の自然と環境を守る会	
29	丹沢山小屋組合	
30	丹沢環境推進会議	

↑写真 西丹沢白石の滝
火山活動による接触変成
でフォルンフェルス 大理石
等の変成岩が見られる。

↑写真 ミズヒ大滝
鍋割山登山道付近にあります。
水量の豊富な滝です。

令和2年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会結果(報告)

1 日時・場所

新型コロナウイルス感染症をめぐる社会情勢を踏まえ、書面にて開催

- ・ 令和2年4月 17 日 各団体に資料送付
- ・ 令和2年4月 26 日 各議案への賛否回答締め切り

2 出席者

別紙出席者名簿のとおり(回答 18 団体、未回答 12 団体)

3 各議案の承認状況

すべての議案について、出席者(回答者)の過半数の賛成により、承認された。

(丹沢大山ボランティアネットワーク会則第7条第3項)

議案1: 令和元年度事業報告・決算報告

資料1. 2のとおり承認(賛成 18、反対0)

議案2: 令和2年度事業計画・予算(案)

資料3. 4のとおり承認(賛成 18、反対0)

議案3: 世話人の改選

資料5のとおり承認(賛成 18、反対0)

議案4: その他(水質調査・夏休み親子自然探検隊の交通費等について)

資料6のとおり承認(賛成 18、反対0)

4 その他(意見等)

- ・ 丹沢大山登山環境意識調査の公表方法について、製本だけでなく、ホームページ等でも確認できるようにしてほしい。
⇒公表方法について、ホームページ公開も含めて自然環境保全センターとも調整していく。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外出自粛が求められる中、会費の徴収方法について、従前の現金納付ではなく、銀行振込等について検討してほしい。
⇒ 銀行振込について検討する。



↑写真 ボラネット活動

自然環境保全センター観察池(たたら沢)



↑写真 自然観察会

葛葉川(葛葉の泉) 川の水音聴き

令和2年度丹沢大山ボランティアネットワーク世話人

	氏名	団体名	任期
代表	小林 昭五	NPO法人丹沢自然学校	令和2.4～令和4.3
副代表	小野 均	NPO法人四十八瀬川自然村	令和2.4～令和4.3
副代表	山口 寿則	NPO法人伊勢原森林里山研究会	令和元.4～令和3.3
会計	黒坂 博	丹沢環境推進会議	令和2.4～令和4.3
監事	安井 啓子	NPO法人野生動物救護の会	令和元.4～令和3.3
監事	森島 眞知子	町田グlaus山の会	令和元.4～令和3.3
	栗林 弘樹	丹沢ゴミ調査会	令和2.4～令和4.3

新世話人 黒坂博氏の挨拶(丹沢環境推進会議)

今回、会計のお手伝いをする事になりました。

代表の小林さんとは古い付き合いになります。
首都圏の人も丹沢に興味を持っている人が多いようで、定年になったら、こちらでボランティアをやりたい、こちらから首都圏に通えるか等言ってくる人もおりました。

知り合いの大工さんは、一日一万歩で丹沢に登ろうと言っています。

私も心がけています。

神奈川はこの合言葉の下に長寿県をめざしていけるかなと思っています。



↑写真黒坂様

登山環境意識調査活動(新松田駅前)

任期満了辞任の世話人

石山 浩恵 様 (会計監査) お疲れ様でした。感謝を申し上げます。

多田 慎一 様 (会計) お疲れ様でした。感謝を申し上げます。

丹沢大山ボランティアネットワーク参加団体行事等案内

北丹沢山岳センター・蛭ヶ岳山荘・神ノ川ヒュッテ管理委員会

神ノ川ヒュッテは、昨秋の台風19号での林道土砂災害および新型コロナウイルス禍のため、
只今休業中です。それに伴い、林道の点検活動や清掃活動等ボランティア活動も
活動停止中です。

なお、見守りパトロールは定期的に行っています。写真で林道の様子をお知らせします。
よろしくお願いいたします。

神ノ川ヒュッテ管理委員会・北丹沢山岳センター・杉本 憲昭



東海道自然歩道青根付近



林道へ積もった土砂



神ノ川ヒュッテ付近の様子



土台が流されたヒュッテの建物

西丹沢の自然にふれあう会



2019年12月
例会 仏果山

2020年6月例会 ゴーラ沢出合
ソーシャルディスタンス



◆ 月例清掃登山

「西丹沢の自然にふれあう会」では、清掃（コロナにより中止中）登山を行っています。

軽いハイキングができる方、どなたでも参加大歓迎です。

8-10月の予定は、次のとおりです。集合の後、バスを利用して目的地に向かいます。

詳細はお問い合わせ下さい。 mnumano@jcom.home.ne.jp 沼野正睦

月 日	行先	集合など（変更の可能性あります）
8/22（土）	・西丹沢 VC～本棚・下棚(ピストン)	8時 新松田駅 バス利用
9/26（土）	・A:西丹沢 VC～善六のタワ～哇ヶ丸避難小屋(ピストン) ・B:西丹沢 VC～本棚・下棚(ピストン)	8時 新松田駅 バス利用
10/24（土）	・バス停～富士見橋～二ノ塔～三ノ塔(ピストン)	8時 秦野駅北口バス利用

自然環境保全センターから

自然環境保全センターでは、自然保護課において、丹沢大山ボランティアネットワークの庶務として、ボラネット活動の支援を行っております。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当センターでも、7月現在、各種研修や行事、研修室の貸し出し等を中止としておりますが、野外施設及び屋内展示施設については、6月から再開しております。

また、今年度から、当センターのホームページの他、Twitter でも、野外施設の状況等の情報発信を始めましたので、是非ご覧ください。

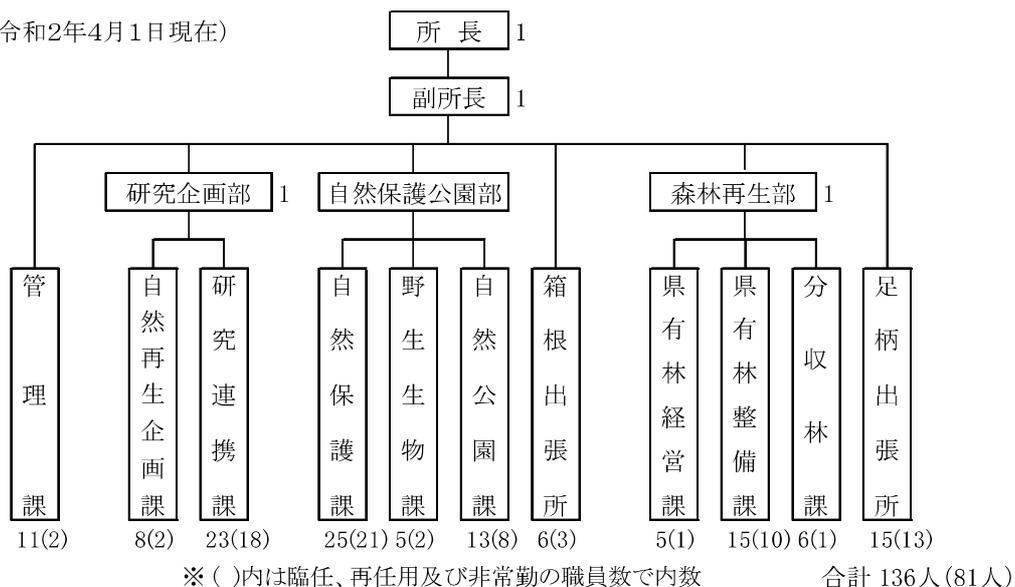
<自然環境保全センターTwitter>

URL : https://twitter.com/hozenc_kanagawa

(県トップページ→ソーシャルメディア一覧にもリンクが掲載されています)

<自然環境保全センター組織>

(令和2年4月1日現在)



【連絡先】 自然保護課(ボラネット庶務担当) 市川 046-248-6682

丹沢ボラネット瓦版2020年7月号(通巻108号)7月17日発行
丹沢 大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五

丹沢ボラネット瓦版

2021年2月号 No.109



↑写真 丹沢の山々と富士山のモルゲンロート 2021年元旦 菜の花台より

丹沢大山登山環境意識調査冊子の一部紹介

丹沢大山登山環境意識調査 丹沢大山ボランティアネットワーク



調査期間 令和元年6月25日～11月30日

目次

丹沢大山登山環境意識調査 概要	1
丹沢大山登山環境意識調査 報告	
1 はじめに	2
2 今回の調査のやり方	3
3 アンケート記入者の基本的資料	5
4 登山者の動向について	9
5 安全登山の意識について	13
6 丹沢大山入山の目的と魅力	15
7 登山道等設備の整備状況	17
8 丹沢大山地域行事への参加	18
9 水場利用について	19
10 丹沢大山入山者の環境意識度合い	20
11 自然環境を保全するための必要な取組み	24
12 まとめ	25
丹沢大山 登山環境 意識調査 アンケート用紙	26
グラフで見るアンケート結果	
1 男女別の観点から	28
2 安全の観点から	30



↑写真 滝降り・沢降りも丹沢の魅力(葛巻川上流) (表紙写真・三ノ峰から見た丹沢の山々)

丹沢大山登山環境意識調査 報告 丹沢・大山ボランティアネットワーク世話人会 1 はじめに

丹沢大山ボランティアネットワーク（以後「丹沢ボラネット」という）は、丹沢への入山者にアンケート調査を実施しました。丹沢大山地域への入山、登山に関わる利用の実態、目的、自然環境保護保全意識などを調べました。

この調査は平成16年度の「丹沢大山総合調査」、平成26年度「丹沢大山登山環境意識調査」以後、丹沢大山地域への入山者の環境意識はどのように変化したかを調べるのが目的です。

平成5年度以後の大規模な「丹沢大山自然環境調査」そして平成16年度からの「丹沢大山総合調査」を経て現在では第3期「丹沢大山自然再生計画」が実施、実行されています。

その結果、全国の先駆けとなる自然公園の素晴らしい復活が見え始め、神奈川県丹沢モデルとなり他県の自然再生事業へ影響を与えています。

「丹沢大山の水場水質調査」と以前行われていた「丹沢主要登山道利用実態調査」と共に丹沢再生の良い資料の積み重ねになれば幸いです。



写真 丹沢自然学校・登山環境意識調査アンケート活動中

場 所・西丹沢ビジターセンター

2 今回の調査のやり方

調査期間は令和元年6月26日～11月30日に行いました。

「四十八瀬川自然村」「伊勢原森林里山研究所」「北丹沢山岳センター」「町田グラウス山の会」「丹沢ゴミ調査会」「丹沢自然学校」の協力により、登山者へアンケート用紙を配布しました。

配布活動の日時は各団体の都合により行いましたので統一されていません。
入山者が多い土日祝日のアンケート活動が多かったです。

★今回はアンケート記入のお礼としてティッシュペーパーをさし上げました。



↑写真 西丹沢ビジターセンター
ティッシュペーパーと小型回収箱

西丹沢と秦野各ビジターセンター、新松田駅前松田町・お休み処「つむGO」、ヤビツ峠トイレ、大山観光案内所、伊勢原観光案内所、日向薬師バス停、鍋割山荘、みやま山荘、尊仏山荘、蛭ヶ岳山荘等に設置したアンケート回収箱で回収する方法で実施しました。(一部直接回収)
また、アンケート用紙は、回収箱を設置した施設へも置いて頂きました。
施設の利用者や宿泊登山者の協力も得られるようにしました。

特に宿泊施設利用登山者は、時間的余裕があるので筆記項目等も詳しくアンケート記入をして頂きました。丹沢環境保全のために建設的な良い意見を多く頂いています。

- ★ 今回はインターネットウェブサイトを使い、ボラネットHPから丹沢大山登山経験者もアンケート用紙記入が出来るようにしました。

丹沢ボラネット活動中

丹沢大山ボランティアネットワーク (丹沢ボラネット) では ボランティア団体が連携し 神奈川県 (行政) とのパートナーシップのもとで丹沢大山の自然環境保全活動に取り組んでいます

活動紹介・登山環境意識調査はこちらからも！ ↓

ボラネットHPへ

↑写真 ティッシュペーパーの表紙

デザイン等は丹沢ごみ調査会の栗林さんを中心に作成しました。
丹沢大山ボランティアネットワークの活動趣旨と登山環境意識調査の回答のお礼や回答記入の便利さや調査活動の県民へのPRを目的にしました。
WEB回答として入山者数に入っています。

調査項目は、平成16年に実施された丹沢大山総合調査（以後「総合調査」）の「登山者の登山環境に関する意識調査」と前回平成26年度に実施された丹沢大山登山環境意識調査を基に「回答者の属性や登山の準備状況、目的」、「施設の整備状況や利用状況」、「自然環境への影響」など

11項目（前回12項目）を設定しました。

前回と回答質問等に少し変化が見られます。回答にも少し影響が見られます。
忙しい登山者のアンケート記入時間を配慮し、内容削減等を話し合い工夫した。
削減した質問項目

- ①使用済みトイレ紙の持ち帰りの周知
- ②今後必要になる登山関連施設の要望

新たに加えた項目 ①入山者の登山コース等

新たに加えた追加小質問 ①水場の利用の目的

3 アンケート記入者の基本的資料

アンケート用紙回収数、872枚

西丹沢261枚、表丹沢319枚、大山・伊勢原72枚、山小屋130枚、インターネット82枚、その他8枚を回収しました。

丹沢大山地域への入山者の割合%を表す時の基本数とします。

比較の資料（総合調査と前回調査の基礎数字）

参考文献

丹沢大山総合調査（平成16年度）の回収数（分類）

回収数 1128枚（男性718人63.7%・女性338人30.0%
・不明72人6.3%）

前回調査 平成26年丹沢大山登山環境意識調査の回収数（分類）

回収数 739枚 内 一般登山者643人（男400人女233人
記載なし10人） ボラネット団体96人

資料の偏りを防ぐためボラネット96枚（参考資料とする）を除きました。

一般登山者643人（枚）を基準にします。



↑写真 回収箱設置場所・ヤビツ峠登山口 登山者で賑わう

4 安全登山の意識について

★登山者の安全登山の意識について調査をしました。

質問3 次の物をお持ちですか？（前回から変更項目あり）

登山装備、準備と丹沢登山経験回数の関係を調べました。

登山の準備装備のうち運動靴を除き、経験者は所持している割合が高く、地図はもとよりヘッドランプの予備電池まで持っています。

何回もの登山でのいろいろな経験から安全について学び、装備が充実して行く様子を読み取れます。

	初めて	2～9回	10回以上	合計
登山靴	66名	211名	257名	534名 62%
運動靴	70名	175名	146名	391名 45%
紙地図	54名	140名	203名	397名 46%
アナログのコンパス	46名	111名	200名	357名 41%
位置情報アプリ	51名	176名	208名	435名 50%
ヘッドランプと電池	84名	220名	275名	579名 67%
記入無し	35名	85名	87名	207名 24%
合計	406名	1118名	1376名	2900名

ヘッドランプと予備電池は全体の装備準備の中で最高67%(66%)に達しています。

これは喜ばしいことであり前回より、わずかだが増加しています。登山者にとっては何が起こるか分からないですから絶対の必需品です。

・今回は今までにない位置情報アプリと運動靴に関して調べました。

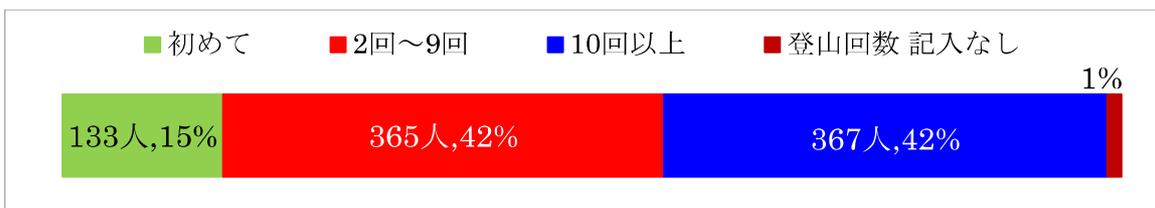
紙地図やアナログコンパスに取って代わる勢いで登山者に普及しています。霧の中でも雨天でも現在地と地形が分かり、小さく軽い装備で便利なのです。

しかしながら紙地図やコンパスは今でも大切な登山必需品です。

登山者にとっては、安全で使いやすく小さく軽い、高品質な登山用品が普及してきたことは喜ばしいことですね。

靴は登山靴が大部分ですが、運動靴が初心者には普通に見られます。

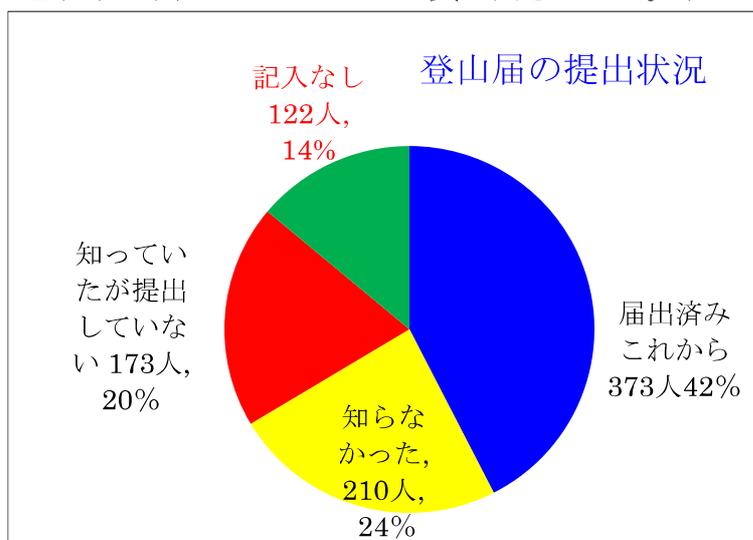
★登山回数別に登山者の割合を調べました。



割合としてみると 15% (133 人) の人が新しい丹沢登山者とみられます。

この人達への丹沢入山者心構え等の啓発を、毎年持続的に続けることが大切かと思われます。もちろんあらゆる機会を捉えて全ての人へ丹沢の環境等について理解をして頂くことも大事です。

質問4 登山届は出しましたか？ 全員に聞きました。() 前回調査



未記入者 122 人、14 %を表から除き、提出者を高めに割合を計算すると登山届の提出状況は、「届出済・これから提出」50%になります。

前回と比較すると、この計算でも (69%) →50%と大変に落ち込んでいます。基本的な安全意識の低下が見られます。

「知っていたが未提出」23%、はどのように考えますか！

登山届の周知率は (92%) →73%と落ちこみ「知らなかった」(8%) →27%と増加しています。この変化もどのように考えれば良いでしょうか？

★登山回数と登山届提出の関係も調べました。(表 次ページ)

・回数別周知状況も見てみましょう。

10回以上の登山者は58%で提出者が多いです。

周知率の落ち込みは初心者が原因と思われがちですがどうだろうか？

登山届提出を知らない人が回数順に27%→32%→22%であり、10回以上の登山者もなんと71名22%の人が知らなく、全体平均で27%です。

私達は真剣に対策を考えたいと思います。解決策として登山口での呼びかけが考えられます。登山者の多い西丹沢は比較的登山口が限定されているのでビジターセンター等の呼びかけは有効と思われれます。

表丹沢や東丹沢では登山口が分散され、その上キャンプの人や、観光、参拝客が多いので呼びかけが困難な面が多いです。

呼びかけも大切ですが後追いの活動であります。

ボラネットや公的な機関が連携して、観察会等の行事を通して直接的、間接的に数多い機会での啓発活動が望まれます。

丹沢における遭難事故、死亡事故例などの解りやすい感情に訴える資料をつくり新聞や公報等で発表し、登山者の安全に対する意識向上の対策がのぞまれます。

	初めての登山者	登山回数 2~9回	登山回数 10回以上	合計
届出済・もしくはこれから提出	50名 46%	139名 44%	184名 58%	373名 50%
登山届を知っていたが提出していない	29名 27%	77名 24%	65名 20%	171名 23%
登山届について知らなかった	29名 27%	101名 32%	71名 22%	201名 27%
登山者合計	108名	317名	320名	745名

5 丹沢大山地域行事への参加

質問8 丹登山沢大山地域で行事へ参加したことがありますか？



★丹沢大山地域で実施している行事等への参加状況を14項目の中から複数回答可能として選んでもらう形式としました。

前回調査は一位 1 植樹、二位 13 ハイキング等、三位 6 清掃登山でした。
今回調査も同じような傾向です。

・その他いろいろな行事があります。

山マラソン、禊体験、節分祭ほか多数、クリーンキャンペーン、鹿調査トレイルレース、山開き式、大山登山マラソン、秦野丹沢まつり山開き式、ロゲイニング、学生時代に森林調査、ブナ調査、アドベンチャーレース、石あげ
丹沢地域への多くの入山者はイベントとしての登山ではなく自分の目的、楽しみを持って入山をしています。

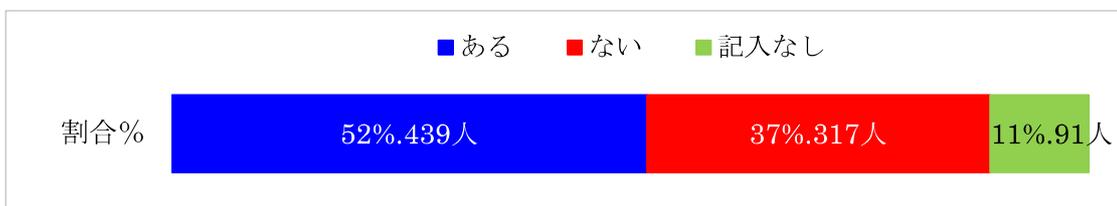
今後の丹沢の地域行事では、次世代へ丹沢遺産を引き継ぐため、丹沢の再生と観光を連携した環境重視の行事が望まれます。

登山者の登山動向を調べるにあたっては、キャンプや参拝者等を除き、登山者のみへの質問が分かり易く、記入無しが減ると思われます。

反省材料としては、次の調査では発問の工夫が必要かなと思われま

6 水場利用について

質問9 丹沢大山地域の水場を利用したことがありますか？



水場の利用状況は「利用したことがある」439人、52% (21%) 「ない」317人、37% (37%) であった。()内は前回調査前回の調査より増加しています。

意外と利用者の割合は少ないです。季節や天気等も関係すると思います。

★続けて利用者に、どのような利用の目的かをたずねました。



今回のアンケートでは、利用者の中で水場をどのように利用しているか新たに問いを加えました。

水場で湧水等を直接飲む人が 302 人、半数以上 63%の人が飲むと答えています。

「多いと思えるか」「少ないと思えるか」どのような見方をすれば良いだろうか？

護摩屋敷の水、葛葉の泉、竜神の泉等はよく利用されています。

車でも行けるので登山者ばかりなく多方面の方に利用されています。夏などシーズン中は、いつも賑わっていて行列が出来ます。



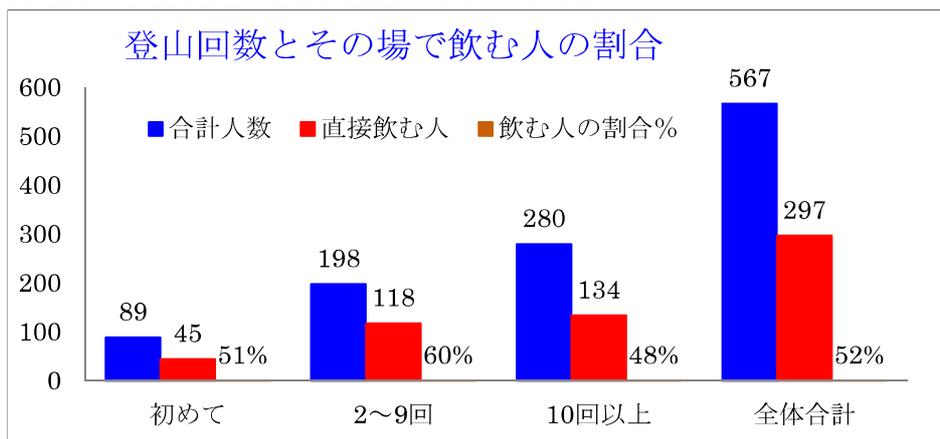
★登山者がその他利用した水場

塔ノ岳直下の水場（不動の水）、白石峠の下の水場、日向林道起点水場、蛭ヶ岳東部水場、春嶽湧水、西丹沢県民の森、↑写真 護摩屋敷の水（ヤビツ峠北側）仲ノ沢法面水場等を利用しています。大山の下社、大山の弘法の水、弘法山井戸、弘法の清水等は一般観光者も多いです。

水場の水質については丹沢大山ボラネットが、毎年5月に22箇所で継続的に水質調査を行っています。ボラネット瓦版や自然環境保全センター報告に水質調査報告が載っています。体験活動等の時に利用をしてください。

水場の利用は、基本的には大腸菌や一般細菌の有無に関係なく「煮沸」しての利用が原則です。

★登山回数と水場利用の関係を見てみましょう。



前回の報告書では初心者利用が少なく（8.4%）、また女性も男性と比べると利用に大きな差があり、少ないと報告されていました。

今回は登山回数とも男女別でも、あまり極端な関係はありませんでした。水場で水を飲む行為は2～9回の登山者は、198人中118人、60%が多いです。

丹沢に慣れ始め、水に対して警戒心が薄れたのかも知れませんが回数との関係はあまり見られません。

沢水を飲む飲まないと登山回数、安全意識は有意な相関関係が見えません。

7 丹沢大山入山者の環境意識度合い

質問10 登山者の行動に対する自然環境への影響度合いをたずねました。

★登山者の環境負荷意識について

今回調査では、前回調査からトレイルレースなど一項目を減らしました。環境意識度合いについてはH16年、H26年の調査と比較してみます。

前2回と比較して見て、前回は「非常にある」が極端に増えていたが、今回は全ての項目で前回より「非常にある」が極端に減少しています。

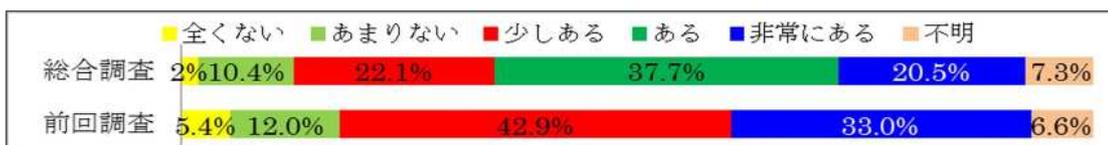
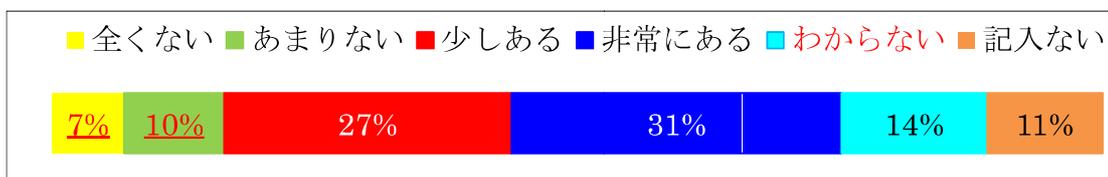
また「非常にある」+「ある」+「少しはある」の和も減少しています。

どのように解釈が出来るのでしょうか？

このような結果が出た原因を見つけ、私達ボラネットを含めた環境保護保全啓発活動の振り返り資料にしたいです。

前回・今回調査の回答項目には濃い緑「ある」が無く、今回は「わからない」が追加されています。グラフを比較するときに考慮し読み取りをお願いします。

① 自家用車乗り入れ



環境への影響が前回よりは「非常にある」が20.5%→33.0%→31%と減少している。「非常にある」に（「ある」+「少しある」）を加え三回の調査を比較しても81%→76%→58%と今回調査では減少しています。

自家用車の入山は環境に影響あると思う丹沢入山者が減っています。

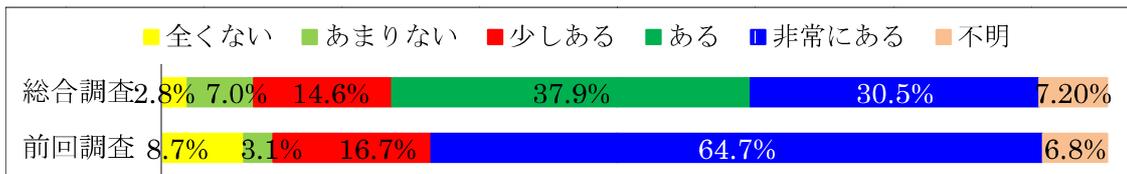
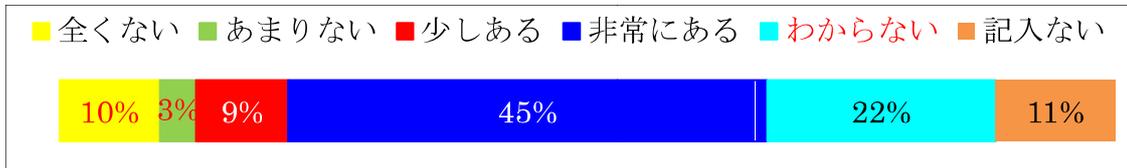
丹沢の自然林の枯渇現象が大気汚染との関係があるのに残念な減少です。低燃費のハイブリッド自動車が増えたのが原因でしょうか？

自然林の立ち枯れや枯死と大気汚染との関係を知らない入山者が増えた可能性もあり様々な原因が考えられます。反面、日本でも自家用車乗り入れ禁止、バス等公共交通機関利用の地域があります。

このような他地域での経験を生かしたいものです。そして環境教育などを通しての啓発を進めていきたいものです。

自家用車の乗り入れについて、自然環境への影響調査でも、総合調査時と比較して影響が「全くない+あまりない」と回答している割合が増加していることから、車の利用者も増加している傾向がわかります。12.4%→17%

② 野生動物へのエサやり

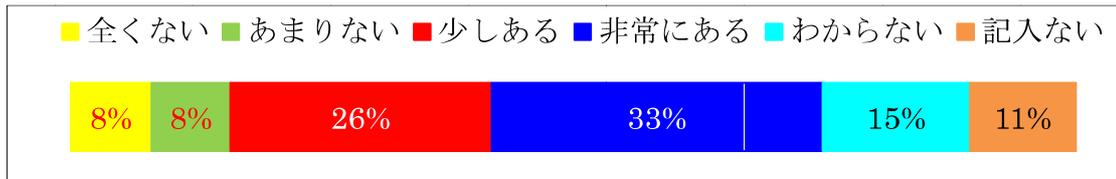


前回よりは「非常にある」は30.5%→64.7%→45%と減りました。
同様に「ある」+「少しある」を加えると83%→78%→54%と減少しました。
 エサやり行為に対しては、野良猫や犬へのエサやりと同じように環境に対する影響が考えられない人が多くなっていると思います。

餌を与えることにより野生動物は繁殖し、人里に近づき農作物等に対して影響を与えるようになり、丹沢ではシカ、サル、イノシシ等が目立っています。

丹沢に於いては今後「エサやり」問題以外にも特定外来種を含むツキノワグマ等の哺乳類、鳥類等との関係や距離感も大切になってきています。野生動物との共存と言うより、活動地域空間を分けた共存が好ましいです。

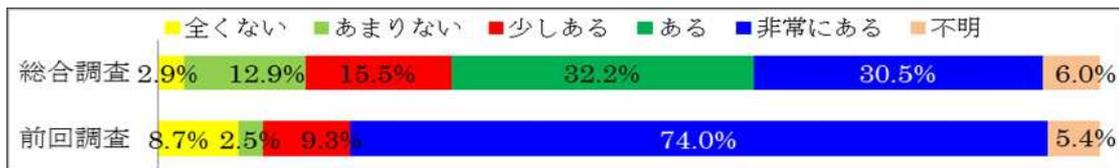
③ 野外での排泄（トイレ）



「非常にある」は17.7%→37.3%→33%と前回より減りました。
「非常にある」+「ある」+「少しある」は81%→77%→59%と減りました。
 ごみのポイ捨てと違い「環境に影響ない」と思う人が増えています。
 自然のサイクルの一部と思う人が多いのか、それとも考えない人が多いのか？

★今回はアンケート調査項目にないが、使用済みのトイレ紙の持ち帰りについて

山小屋の協力でビニール袋が用意されている所もありますが、持ち帰りです。
ゴミのポイ捨て



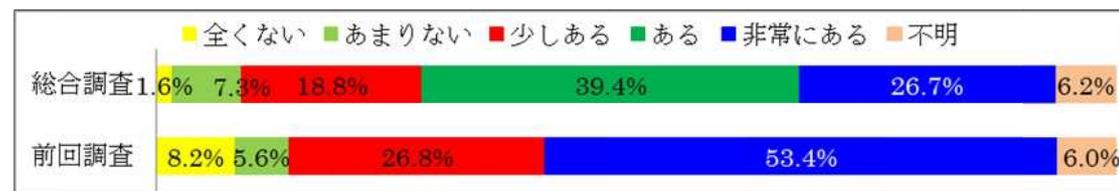
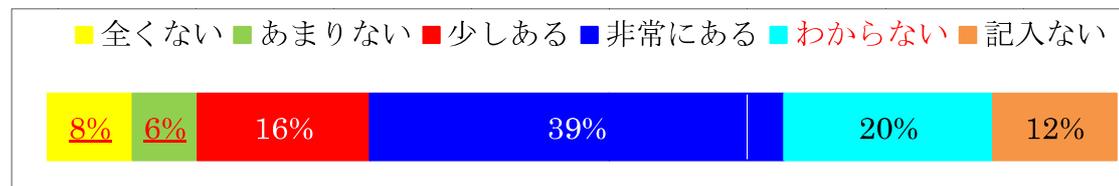
「非常にある」は30.5%→74.0%→46%と減りました。

「非常にある」+「ある」+「少しある」は78%→83%→52%と減りました。
全国的には富士山などの世界遺産指定を通じて、ごみ問題などにより
指定されなかった経過があり、ごみ問題に対する環境意識が向上して来ました。

最近レジ袋やマイクロプラスチックごみが話題に上がりました。

これらのごみ問題が周知され丹沢入山者へも大きく影響がある事を期待します。
環境啓発活動により「影響有る」が90%を超えることが望まれます。

④ 登山道を外れて歩く



「非常にある」は26.7%→53.4%→39%と減りました。

「非常にある」+「ある」+「少しある」は85%→80%→55%と減りました。
「影響がない」は8.9%→13.8%→14%と変化をし、誤差の範囲の小さい変化です。
登山道が整備され、周囲の植物が豊かに回復しているので、環境保護事業への
理解が深まり環境意識向上へ、つながっていると思えます。

環境意識後退の数字は「5わからない」選択肢を付け加え4項目→5項目へ
増加したのが一因とも考えられます。反対回答の「環境への影響はない」は
増減幅が小さい事（誤差の範囲）から推測できます。

またいろいろ複雑な環境問題の発生により環境意識が向上し、反対に
「わからない」の増加をもたらしている、との見方もあります。

★項目 登山の際、自然環境に気を付けていることがありますか。(文章記入)

- ・登山道を外れない様に気を付けている。
広がって駄目にならないよう真ん中歩く。
 - ・木道のある箇所は必ず木道を歩く。
大倉尾根では水切りを掃除する。
 - ・ゴミを落とさない、アメ等の小さなゴミが落ちないように、見つけたら拾う。
 - ・残飯の持ち帰りの徹底、携帯トイレ持参
- 写真 仲ノ沢法面水場清掃が行き届いています



8 自然環境を保全するための必要な取組み

質問 1 1 丹沢大山の自然環境を保全するためには、どのような取組みが必要ですか? (記述回答)

いろいろな環境への取り組みで正反対の意見も多く見られました。

★自然のままが良い。整備は必要、防災環境保全のためにして欲しい。

- ・人が多すぎであるし、山の崩れも多いため様々なレベルの人が楽しめるよう整備が行き届いていますが、なるべく自然のままが良い。
- ・木道がよく行き届き、整備状況が良く初心者が多い反面、悪い所は渋滞する。
- ・街の公園化する必要は無く整備された山は好きではないが整備は必要と思う。

★入山料、入山規制や自家用車の乗入れ規制、オーバーユース対策等について

- ・入山料(入山料や駐車場料金、
公衆トイレ利用料の徴収)の検討してみる。
 - ・登山口で一人入山料 1000 円を頂く。
- オーバーユース対策、自家用車の規制、
登山者の分散化も必要。

→写真 50年前 蛭ヶ岳山頂付近には林冠ギャップ
(草地)も有ったが、豊かな自然が有った。



★イベント等に対する意見。

厳しい意見が多いです。主催者等は事業趣旨を知らせ、お互いに理解し合う事が大切です。

- ・トレランを禁止するべきである、歩道草地を大きく傷つけている。歩く人に対しても脅威を感じさせる。観光ツアー、イベント等と自然保護、保全は対立するのではなく共存の道を捜したいと思う。

★水源環境保全税等について

水源環境保全税について入山者には、まだまだ周知不十分と思えます。
トイレ整備など環境整備に使われていることのPRも大切です。

9 まとめ

丹沢大山登山環境意識調査は令和元年度に丹沢大山ボランティアネットワーク参加団体の協力で実施されました。そして令和2年度にボラネット世話人会がアンケートを冊子の形でまとめました。

平成から令和の時代が変わった令和元年に調査が行われました。この年の環境問題は地球環境問題で、自然環境と言うよりプラスチックゴミやビニールレジ袋等が海洋生物など地球環境汚染問題として大きく取り上げられ始めた時期です。

丹沢大山入山者の環境意識は調査結果を見ると、残念ながら以前の調査時よりも僅かではありますが、後退傾向が見られました。

令和2年度は新型コロナウイルス禍の中で、ボラネット事業は次々と中止を余儀なくされています。環境教育分野でも実践活動等でも停滞してしまいました。

このような状況の中で新しい生活様式の中で、私達ボラネットは事業へ取り組んでいきます。そして今後、最も大切になってくるのは環境啓発活動や体験活動かと思われまます。

丹沢大山総合調査以来、神奈川県とボランティア団体は連携して、丹沢の環境保護保全へ取り組んできました。

自信を持って言わせていただきたい事は、丹沢大山地域は今までの先進的取り組みにより、自然環境は目に見える形で復活の傾向にあり、自然の回復が軌道に乗ってきた事です。登山道や危険箇所、トイレ等も整備されて来ました。

それに伴い丹沢入山者も、様々な事業、体験活動の中で環境意識をも向上をしてきました。それは総合調査、前回の調査でも肯定的意識比率が高い事で明らかにされています。

今回のアンケート結果を踏まえ令和の時代に合ったボラネット活動にしたいものです。

働き方改革、新しい生活様式等により新しい丹沢登山者、キャンパー、観光来訪者等が増え「環境啓発活動が全ての入山者には行き届いていない」と思われます。

私達の課題は多方面から県民全体に向け、数多くの場面で積極的に環境啓発活動を進めて行くことです。

次世代の神奈川県民へ豊かな自然のある丹沢大山の自然遺産、文化遺産を遺したいものです。



参考文献「丹沢大山総合調査学術報告書」
平成26年度 丹沢大山登山環境意識調査

↑写真 塔ノ岳山頂からの展望
親から子へ遺す丹沢大山自然文化遺産

丹沢大山ボランティアネットワーク参加団体行事等案内

西丹沢の自然にふれあう会



2019年
12月例会
仏果山

2020年6月例会 ゴーラ沢出合
ソーシャルディスタンス



◆ 月例清掃登山

「西丹沢の自然にふれあう会」では、清掃登山を行っています。

軽いハイキングができる方、どなたでも参加大歓迎です。

2-4月の予定は、次のとおりです。集合の後、徒歩またはバスを利用して目的地に向かいます。

集合時間などは、月初に案内されます。中止・行先変更などの可能性もあります。

詳細はお問い合わせ下さい。 mnumano@jcom.home.ne.jp 沼野正睦

月 日	行先	集合など
2/27 (土)	・鶴巻温泉駅～吾妻山～善波峠～弘法山～権現山～秦野駅	小田急線鶴巻温泉駅 バス利用
3/27 (土)	・大倉バス停～大倉尾根～堀山の家(ピストン)	小田急線渋沢駅 神奈中バス大倉行 バス利用
4/24 (土)	・谷峨駅～大野山(ピストン)	JR 御殿場線谷峨駅

北丹沢山岳センター・蛭ヶ岳山荘・神ノ川ヒュッテ管理委員会

神ノ川ヒュッテ管理委員会・北丹沢山岳センター・杉本 憲昭

令和 3 年度北丹沢神ノ川流域の山開きと 周辺整備活動協力依頼のご案内

神ノ川周辺では昨年秋の台風 19 号により激流と大量土砂が発生し、多大な被害を受けました。当神ノ川ヒュッテも一部被害がありましたが、神ノ川林道の復旧がままならず現地へ赴くことも叶わぬまま一年が過ぎてしまいました。今年春の山開きも中止となり、神ノ川の現状が心配な日々を送っております。来年の山開きには是非みなさまのお力をお借りしたいと存じます。ボランティア活動のみなさまには日帰りで飲み物・弁当持参で当日の保険加入が参加条件です。保険については日山協のスポーツ保険の加入を受け付けております。お申し付け下さい。

記

1. 開催日 令和3年4月11日（日）
2. 集合 午前10時（自動車で来所可）
3. 会場地 折花神社境内 山開きの記念行事を開催
4. 山開き終了後 徒歩にて神の川ヒュッテへ移動し復旧作業

以上

丹沢ボラネット瓦版2021年2月号（通巻109号）2月16日発行
丹沢 大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五

Ⅱ 会員団体活動掲示板

団体名称	神奈川県勤労者山岳連盟
	<p>神奈川県勤労者山岳連盟は国民の登山要求の高まりの中で、「安く、楽しく、安全に」を合言葉に1968年に結成し、半世紀を越えた。登山が自然をフィールドとするスポーツである以上、常に自然との共存共生や遭難事故防止の課題を伴っている。私たちは自らの登山技術や知識を高め、仲間を迎え入れ、登山活動の一層の充実と発展を図る。また、自然保護委員会を設立し、丹沢をはじめとする自然保護活動にも力を尽くしてきている。</p> <p>【設立年月日】1968年</p>
団体情報	<p>【代表者】渡辺 三男</p> <p>【会員数】635名</p> <p>【ホームページ】http://www.k-rouzan.net/</p>
活動内容	<p>2020年活動報告</p> <p>●「第43回丹沢クリーンハイク」中止</p> <p>2020年5月、「年に一度は丹沢に恩返し」をキャッチフレーズに登山道整備に力を注ごうと準備を進めていたが、コロナ禍で中止となる。</p> <p>2020年はこれからのクリーンハイクの検討期間とし、登山道整備について学びたいと、神奈川県自然公園指導員の登山道補修隊にお願いし、補修活動を見学させていただいた(2020年10月、12月、大山於いて)。</p> <p>●日本勤労者山岳連盟内外の自然観察会、全国自然保護集会、自然保護担当者会議、自然保護講演会などへ参加し、自然保護について学ぶ。</p> <p>●東日本大震災の被災地支援活動</p> <p>現地の勤労者山岳連盟と交流し、宮城県石巻市民植樹活動、福島南相馬子ども達の保養プロジェクトなどボランティア活動を継続して取り組んでいる。</p> <p>コロナ禍で、2020年11月、東日本大震災石巻ボランティアの活動のみ参加。</p>
連絡先	<p>【担当者】磯部 津輝子</p> <p>【住所】〒221-0045 横浜市神奈川区神奈川 2-14-16 トーリックビル 3階</p> <p>【電話】045-534-5553 (新日本スポーツ連盟神奈川県連盟取次)</p> <p>【FAX】045-534-5554</p> <p>【メール】http://www.k-rouzan.net/</p>

団体名称	横浜わらび山の会
設立目的	<p>自然を通じて会員相互の親睦をはかり、「生涯登山」を合言葉に楽しい山歩きやハイキングを目的としています。日帰り山行は元より、夏の山行、街中ハイキングから神社、仏閣巡り、温泉、花巡り、障害者登山への積極的参加などを通して、自然を愛し、自然保護に力を入れ、自然と親しみながら、「和やかに」「楽しく」「美しく」、いつまでも元気でいられるよう行動しています。</p> <p>会名「わらび」は、理念のなかの「和やかに」「楽しく」「美しく」の和・楽・美を合わせて「わらび」と命名しました。</p> <p>【設立年月日】1990年3月</p>
団体情報	<p>【代表者】武智 清史</p> <p>【会員数】29名 50才～70才代が中心</p> <p>【ホームページ】横浜わらび山の会</p>
活動内容	<p>10月24日（土）</p> <p>丹沢の緑を育む集い実行委員会主催の植樹事業に4名参加。</p> <p>植樹の場所は菩提峠エリア</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">    </div>
連絡先	<p>【担当者】長谷川 隆</p> <p>【住所】</p> <p>【電話】</p> <p>【FAX】</p> <p>【メール】BRB35371@nifty.com</p>

団体名称	かながわフィールドスタッフクラブ
設立目的	<p>かながわフィールドスタッフクラブは、神奈川県自然環境保全センターが自然保護を目的として設置した神奈川県フィールドスタッフ養成研修を修了した有志によって構成されております。</p> <p>1994年（平成 6年）神奈川県フィールドスタッフクラブとして発足 2008年（平成20年）に NPO 法人かながわフィールドスタッフクラブとして認証を受け、現在神奈川県内各地、特に厚木市七沢の神奈川県自然環境保全センターを中心に活動しております。</p>
団体情報	<p>【代表者】 大野征一</p> <p>【会員数】 60名</p> <p>【ホームページ】 http://www.npokfsc.com/</p>
活動内容	<p>1, 遠足観察会 年間6～7回、神奈川県内自然公園を中心に日帰り観察会を実施。 <u>“令和2年度はコロナウイルス感染予防の為実施を中止しました”</u></p> <p>2, 神奈川県立自然環境保全センターから要請を受けての活動。</p> <p>① ミニ観察会 毎月第4日曜日に保全センター来館者を午後1時から3時までの2時間、観察コースを案内解説する。</p> <p>② 発見クラブ センターが募集をした参加者と共に樹木園観察後に自然素材を使ったクラフト作りを実施。</p> <p>③ 自然園ガイド 神奈川県内各地の学校・幼稚園・各種団体から要望のあった「自然環境保全センター見学会」のガイド役を務める（平日対応）</p> <p>④ フィールドスタッフ養成実習 神奈川県が環境保全センターを会場として実施の「フィールドスタッフ養成講座」の一部フィールドでの養成実習を年間4回実施。 <u>“令和2年度の上記4事業は、すべて中止となっております”</u></p> <p>3, 宮ヶ瀬湖周辺事業</p> <p>① 園地で採取したセラドン石をペンダントに加工 実施日：令和2年12月5日 参加者14名 12月、冷たい水で石を洗い気に入った形に磨き上げるのは大変ですが、親子が楽し気にペンダント作りに夢中になっていました。</p> <div data-bbox="655 1839 896 2018" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="991 1839 1286 2058" data-label="Image"> </div>

② 園地で刈り取ったススキを使ったミミズク作り



出来たミミズクたち

4、七沢森林公園事業

①公園内モニタリング・観察会

毎月第1日曜日 9:00~12:30 自由参加

園内を「沢のエリア」「尾根のエリア」「おおやまエリア」「ながめの道エリア」に区分して

*植物の開花情報・結実情報

*哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫の情報を記録、撮影する。
一般参加者も同行して、モニタリング状況を見学しつつ、移動中にスタッフからの解説を聴く。

③ 森林セラピー

毎月第2日曜日 9:55~12:30 自由参加

(但し暑気7月と8月、寒気1月と2月は中止)

森林浴、気功、呼吸法、ハンモック、太極拳などにより、健康増進を図ります。なかでもハンモック体験は人気がある。



ハンモックを体験中

連絡先

【担当者】石井 晃

【住 所】厚木市旭町 1-34-3-602

【電 話】046-281-9320

【FAX】

【メール】aishii@jasmin.ocn.ne.jp

団体名称	神ノ川ヒュッテ管理委員会
設立目的	<p>山岳愛好者を中心とする一般公衆に対して、北丹沢地域の山岳活動に関する事業を行い、もって環境保護・スポーツ振興・災害救助に寄与することを目的とする。</p> <p>自然保護活動（広河原植林事業、東海自然歩道監視、整備等）の基地及び山岳スポーツ（トレイルレース）の基地として活動している。</p> <p>【設立年月日】 1993年 4月 1日</p>
団体情報	<p>【代表者】 杉本 憲昭</p> <p>【会員数】 50名</p> <p>【ホームページ】 http://kitatan.com/kantop</p>
活動内容	<p>神ノ川ヒュッテを基地として各登山道の整備のサポート等ボランティア活動をこの間実施してきたが令和元年10月12日台風19号により神ノ川林道災害により通行止めが発生し、復旧の見込みが立たぬまま現在に至る。</p> <p>神ノ川ヒュッテより犬越路に至る東海道自然歩道コースは復旧困難で通行不可能、神ノ川ヒュッテより林道で広河原までも各所で土砂災害により立入る事は不可能な為、令和3年1月1日より神ノ川林道音久和～折花神社までは管理者である神奈川県央事務所より神ノ川ヒュッテに条件付きで通行許可がおりました。令和3年4月11日（日）午前10時より折花神社に於て、境内一部災害箇所への修繕等のボランティア活動を実施します。</p> <p>活動場所 北丹沢山城（特に神の川、広河原、鐘撞山を中心とした地域）</p> <p>神の川ヒュッテ友の会会長 加藤 博恵</p>
連絡先	<p>【担当者】 杉本 憲昭</p> <p>【住所】 相模原市緑区小淵1545-1</p> <p>【電話】 042-687-4011</p> <p>【FAX】 042-687-3980</p> <p>【メール】 kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp</p>

団体名称	NPO法人北丹沢山岳センター
設立目的	<p>藤野町牧野財産管理会の委託を受け、健全なヒュッテの経営を行う。 山岳愛好者を中心とする一般公衆に対して、北丹沢地域の山岳活動に関する事業を行い、もって環境保護・スポーツ振興・災害救助に寄与することを目的とする。</p> <p>【設立年月日】 2003年 4月 11日</p>
団体情報	<p>【代表者】 杉本 憲昭</p> <p>【会員数】 運営委員会20名 6団体100名</p> <p>【ホームページ】 http://kitatan.com/</p>
活動内容	<p>2020</p> <p>4月 7日 国道20号線クリーン活動</p> <p>4月14日 北丹沢神の川流域山開き・折花姫神社での本祭行事</p> <p>7月 7日 北丹沢12時間山岳耐久レースへの協力</p> <p>7月26日 神の川周辺登山道の清掃・点検活動</p> <p>11月10日 陣馬山トレイルレースへの協力・陣馬山清掃活動</p> <p>活動場所 北丹沢山城、陣馬山城 (特に神の川、広河原、蛭ヶ岳、姫次を中心とした地域)</p>
連絡先	<p>【担当者】 杉本 憲昭</p> <p>【住 所】 相模原市緑区小淵1545-1</p> <p>【電 話】 042-687-4011</p> <p>【FAX】 042-687-3980</p> <p>【メール】 kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp</p>

団体名称	山綾会（さんりょうかい）
設立目的	<p>中高年を対象に健全な登山・ハイキング等を実施することにより会員の健康増進と親睦を図る。また、自然保護活動や市民文化活動に参加するとともに市民等を対象に登山講座等を開催し、安全登山及び自然保護の啓発を行う。</p> <p>【設立年月日】 1992年</p>
団体情報	<p>【代表者】 山田 正志</p> <p>【会員数】 52名</p> <p>【ホームページ】http://sanryokai.1992.web.fc2.com/（綾瀬 山綾会 検索）</p>
活動内容	<p>「山行実施回数40本、登山講座、大山清掃登山、市民文化祭と参加者延べ564名・・・。」残念ながらこの数字は前年度の活動実績数です。</p> <p>新型コロナ感染症が蔓延し、コロナとうまく付き合う方法を模索する年でした。</p> <p>2年度は1月恒例の七福神+鶴亀巡り（秦野市内）で1年の健康と安全登山を祈願し、活動をスタートさせました。湘南海岸・辻堂海浜公園歩き、大野山登山と年初は足慣らしの季節です。</p> <p>2月は趣向を凝らし「小田原城総構え」を会員をガイド役に小田原北条氏5代の足跡を辿りました。冬晴れの中、城郭都市を築いた北条百年の歴史も秀吉の小田原攻めに明け渡すことに・・・。“会の語り部”は好評を博しました。</p> <p>下旬には某ビールメーカー工場見学を組み入れた府中市郷土の森梅園散策でしたが、この実施の判断には苦慮しました。</p> <p>年間計画では、新会員歓迎登山、丹沢での夏山訓練、3000m級は鹿島槍ヶ岳へのリベンジ登山、白馬岳などでしたが計画倒れとなりました。市民向けの登山講座しかり、大山清掃登山も早々に中止の連絡がありました。</p> <p>新型コロナ禍の中、会では2月の山行を最後として、活動を2度にわたり中止の判断をし、結果令和3年3月末まで休止しました。</p> <p>このため、新年度の事業計画・予算案も「書面総会」で開催したところです。このような中、体力・脚力維持のため個人山行等で少数登山を勧めています。</p> <p>なお、年度の話題として、地域の海老名エフエム放送局「FMカオン（84.2MHz）」に出演させていただき、会の創設趣旨・活動等を語ることができました。</p> <p>今年度2ヶ月間の実績は、山行実施6回、参加者の延べ115名でした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>
連絡先	<p>【担当者】 栗原 十九二</p> <p>【住所】</p> <p>【電話】</p> <p>【FAX】</p> <p>【メール】 toku1920@ozzio.jp</p>

団体名称	西丹沢の自然にふれあう会
目的	西丹沢・北丹沢計6箇所の避難小屋およびその往復登山道の清掃活動をするため 【設立年月日】2000年6月25日
団体情報	【代表者】多田慎一 【会員数】29名 【ホームページ】-
活動内容	<p>令和2年度の活動概略</p> <p>コロナにより、行事・例会・ごみ収集中止など影響大。</p> <p>・月一回の例会を計5回実施。内容はゴウラ沢出合、三ノ塔、仏果山など。参加者延べ18人、回収ゴミ0.2kg。</p> <p>(写真は令和元年9月例会一軒家避難小屋清掃後、西丹沢ビジターセンターで/ 右下、令和2年6月例会 ゴウラ沢出合、ソーシャルディスタンス)</p>  
連絡先	<p>【担当者】沼野正睦</p> <p>【住所】</p> <p>【電話】</p> <p>【FAX】</p> <p>【メール】mnumano@jcom.home.ne.jp</p>

団体名称	蛭ヶ岳山荘委員会
設立目的	<p>神奈川県より譲渡された、民間経営の山小屋としてお客様が快適に過ごせる山小屋を目指して営業努力している。山岳愛好者を中心とする一般登山者に対して、北丹沢地域の山岳活動に関する事業を行い、もって環境保護・スポーツ振興・災害救助に寄与することを目的とする。</p> <p>【設立年月日】 1998年 4月 1日</p>
団体情報	<p>【代表者】 杉本 憲昭</p> <p>【会員数】 蛭ヶ岳山荘友の会70名</p> <p>【ホームページ】 http://kitatan.com/hirutop</p>
活動内容	<p>令和元年10月12日 台風19号により林道に土砂崩れ災害発生 蛭ヶ岳への登山主脈コースは平丸からのみ 現在の主なコースは表丹沢コースとなっています</p> <p>令和2年4月9日 蛭ヶ岳 春・夏用の物資荷上げ 10月25日 蛭ヶ岳 秋・冬用の物資荷上げ 8～9月 ボランティアによる蛭ヶ岳山荘の屋根・外壁塗装作業を実施 令和3年度は新型コロナ禍によりボランティア活動は現在未定</p> <p>活動場所 北丹沢山城（特に蛭ヶ岳、神ノ川、姫次を中心とした地域）</p> <p>蛭ヶ岳山荘友の会会長 東城 進紀</p>
連絡先	<p>【担当者】 杉本 憲昭</p> <p>【住 所】 相模原市緑区小淵1545-1</p> <p>【電 話】 042-687-4011</p> <p>【FAX】 042-687-3980</p> <p>【メール】 kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp</p>

団体名称	NPO 法人 みろく山の会
設立目的	健全かつ安全な登山、ハイキングに対する事業を行いスポーツの振興に寄与する 目的で設立 【設立年月日】1983年4月設立。2000年3月にNPO法人としての認証を受ける
団体情報	【代表者】坂本優 【会員数】771名（2020年12月末） 【ホームページ】 https://npo.mirokuyamanokai.org/
活動内容	<p>例年、会山行を月50回以上、年間700回以上を計画していますが、今年度はコロナ禍での山行中止が多く、実施は40%を下回っています。</p> <p>山行は、160名ほどのリーダーで初心者から経験者までが参加できるよう、公園歩き、近郊の低山、アルプスなどの縦走、沢登り、クライミング、雪山、スキー等を実施しています。</p> <p>当会の三大大行事としては総会・清掃登山・みろく祭があります。その中で自然保護活動の一環として実施している「清掃登山活動」は会創設以来継続して取り組んでいますが、今年度は新型コロナによる非常事態宣言が発令されていたため中止となりました。</p> <p>また丹沢大山再生計画の第一期から行っている大倉尾根の県民協働型登山道補修は、毎月1回10名程度が参加して登山道の老朽化した階段や水切りの補修等を行っています。（今年度は8回実施）</p>
連絡先	<p>【担当者】金井朝子（自然保護部長）</p> <p>【住 所】横浜市西区戸部本町51-13 松村興産ビル2階</p> <p>【電 話】045-317-2369</p> <p>【F A X】045-317-2365</p> <p>【メール】miroku.shizenhogo.bu@gmail.com</p>

団体名称	NPO 法人 野生動物救護獣医師協会神奈川支部 (WRV 神奈川支部)
設立目的	野生動物の救護活動を通じ、神奈川県における自然環境保全に寄与することを目的とする 【設立年月日】 2003 年 7 月 5 日
団体情報	【代表者】 皆川康雄 【会員数】 約 10 名 神奈川県野生動物リハビリテーター認定者：約 100 名 【ホームページ】 https://wrv-kanagawa.net/ 【Facebook ページ】 https://www.facebook.com/wrv.kanagawa
活動内容	丹沢大山の自然環境保全に直接かかわる活動は特にはないが、県内の野生動物救護施設を中心に県内全域で以下の活動をしています。 ※ただし、今年度は新型コロナの影響により、ほとんど実施できておりません ①傷病野生動物の救護と野生復帰 ②傷病野生動物の救護に従事できる専門的なボランティア『神奈川県野生動物リハビリテーター』を県の協力を得て養成及び資格認定 認定された野生動物リハビリテーターは、県自然環境保全センター、横浜市立動物園（野毛山・金沢・よこはま動物園ズーラシア）及び川崎市夢見ヶ崎動物公園にて活動 ③大学や専門学校を対象に野生動物リハビリテーター人材の育成のための専門家教育 ④次代を担う子どもたちに生命や自然の大切さ、人と野生動物との共生のための環境教育 ⑤県民に野生動物救護に対する理解を深めてもらうための普及啓発 ⑥救護原因の究明や予防対策のための調査研究
連絡先	【担当者】 皆川康雄 【住 所】 横浜市神奈川区六角橋 5-17-15 皆川ハイツ 102 【電 話】 045-548-4744 【F A X】 045-548-4745 【メール】 kanagawa@wrvj.org

団体名称	町田グラウス山の会（日本勤労者山岳連盟所属）
設立目的	登山を市民の健全なスポーツ・レクリエーションとして広め、登山の知識技術の向上と安全山行を推進するとともに、山岳自然保護活動などを行う。 【設立年月日】 1984年1月
団体情報	【代表者】前川 秀幸 【会員数】 170名 【ホームページ】 http://machida-grouse.com/
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丹沢をはじめ、全国各地及び海外の山岳での登山活動。 ただし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大人数での山行や海外での登山は行われず、ごく少人数での登山に限られた。 ・ 4月の丹沢山開き式への参加と三ノ塔尾根での植物観察会 5月の障がい者との交流ハイキング 10月のヤビツ峠周辺でのクリーンハイク など恒例となっている行事が種々計画されたが、令和2年度はコロナウイルス感染症拡大防止の為すべて中止となった。
連絡先	<ul style="list-style-type: none"> 【担当者】森島 眞知子 【住 所】町田市山崎町 1356 シーアイハイツE902 【電 話】042-813-3171 【F A X】 042-813-3171 【メール】suminagashi_asahi@yahoo.co.jp

団体名称	NPO法人丹沢自然学校
設立目的	<p>丹沢地域に暮らす人々及び丹沢地域を訪問する人々に対して、相互の交流を促進すると共に、丹沢地域の自然、文化の普及、啓発に関する事業を行い、丹沢地域の自然環境及び地域文化の保護、保全に寄与することを目的とする。</p> <p>2009年4月23日NPO法人として設立(2007年3月3日任意団体として発足)</p>
団体情報	<p>【代表者】 理事長 五十嵐聡</p> <p>【会員数】 17名</p> <p>【ホームページ】 http://www.tes21.org</p>
活動内容	<p>私たちは西丹沢を中心に、丹沢の自然や文化を体験するエコツアー・プログラムを企画・実施しています。</p> <p>しかし2020年度は、コロナ禍のため、人気プログラムであるシャワークライミングをはじめとするエコツアーは開催できませんでした。大変残念ですが、今後は感染状況を見極めながら、万全の対策の上、少しずつプログラムを再開していきたいと考えています。</p> <p>エコツアー以外の活動として、西丹沢の植生の状況を追跡調査する定点撮影調査を2010年度から行っています。丹沢の林床植生の衰退や回復の証拠をとらえることができています。2020年も10月に檜洞丸のつつじ新道で10か所の定点の撮影を実施しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>檜洞丸山頂直下 2010年10月撮影</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>同一地点 2010年10月撮影 林床植生が回復していることがわかる。</p> </div> </div>

また地域への貢献として、秦野市郊外の小学校・幼稚園で、水生生物・野生動物調査の出張授業を3回実施しています（幼稚園1回、小学校2回）。

幼稚園で実施した「生きものの里調査隊」では、親子を対象にして、柳川生きものの里の水生生物を調査しました。水生生物の採集方法「ガサガサ」のやり方を教え、採れた生物をスタッフが分類したところ、ドジョウ37匹、ホトケドジョウ23匹、アブラハヤ7匹、ツチガエル10匹などが採集できました。ホトケドジョウが絶滅危惧種であることなどを解説し、この場所にいかに貴重な自然が残っているかを、体で感じていただく体験になったと思います。



小学校3年生を対象とした「上秦野野生動物調査隊」は、学校の周辺で野生動物の痕跡探しをした後で、動物が活動しそうな場所を児童が考え、センサーカメラを仕掛けるという方法で、2016年度から毎年冬に実施しています。

今年度は2月1日～15日に実施し、哺乳類ではシカ、キツネ、タヌキ、アライグマ、ハクビシン、イタチ、ウサギの生息が確認されました。特にキツネ、イタチの撮影は5年間のこの調査でも初めてで、秦野市郊外の里山に肉食動物も含めた生態系が機能していることが確認できました。この調査結果は、秦野市環境保全課及び市の自然観察施設「くずはの家」にも提供しています。



これらの活動を通じ、多くの方に丹沢の自然や文化を知っていただき、丹沢の自然のために行動する輪が広がっていくことを願っています。

連絡先	【担当者】
	【住 所】 秦野市八沢 76-5
	【電 話】 080-5528-1491
	【F A X】 0463-57-2967
	【メール】

団体名称	特定非営利活動法人 野生動物救護の会
設立目的	野生動物の保護及び救護に関わる活動を通じて、自然環境と生物多様性の保全に貢献することを目的とする。 モットーは「一頭一羽でも多くの野生復帰を目指して！」 【設立年月日】平成18年10月2日
団体情報	【代表者】 渡辺 優子 【会員数】 約90名 小学生から年配者まで幅広い会員 【ホームページ】 http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp
活動内容	基本は神奈川県自然環境保全センターにおける野生動物救護ボランティアとしての活動。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月 会報誌「RUNNER 35」発行 ・ 7月12日 第13回 特定非営利活動法人野生動物救護の会 定期総会開催 ・ 11月21日 野生動物痕跡調査講習会 開催 ・ 11月～12月23日 ブナの森ギャラリー展示「野生動物救護の会 活動紹介」 ・ 12月13日 傷病舎大掃除 開催 サントリー助成金 羽根標本冊子（作成中） 通年調査 <ul style="list-style-type: none"> ・「足環プロジェクト」 ・ 秦野市立図書館衝突調査及び死亡個体の解剖検証 ・ フクロウなどの巣箱調査 ・ 神奈川県自然環境保全センター野外施設及び傷病鳥獣治療飼育舎周辺での「野生動物痕跡調査」 そのほか羽根標本作成や探鳥会などを行っている また、会報誌 RUNNER 発行やブログ更新（随時）も行っている
連絡先	【担当者】 野生動物救護の会 事務局 【住所】 神奈川県秦野市戸川 1086-4 【電話】 0463-75-1830 【FAX】 0463-75-1830 【メール】 wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp



ブナの森ギャラリー展示



痕跡調査講習会

団体名称	特定非営利活動法人 足柄丹沢の郷ネットワーク
設立目的	<p>広く一般の市民に対して、神奈川県足柄上地域・西丹沢の地域間連携による共生型の市民ネットワーク社会の構築と地域にある豊富な資源を活用した都市と農山村間の交流や学び、体験などの多様なカリキュラムやプログラムを通じて、人と地域が共に学び、共に生き、共に発展（繁栄）していくための持続可能な仕組みづくりを目指し、地域や山里の歴史や自然、暮らしや文化などの叡智に対する認識と継承を行い、環境、教育、社会福祉、青少年の健全育成などの分野の向上に寄与すること。</p> <p>【設立年月日】平成23年6月7日</p>
団体情報	<p>【代表者】 福島 実</p> <p>【ホームページ】 https://ashitan.jimdo.com/</p>
活動内容	<p>【主な活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 足柄キンタロウ学校事業 ・ 森林ボランティア活動：水源地の森林を守ろう！活動（活動場所：山北町三保地区の森林） ・ 自伐型林業と木の駅・薪ステーション（薪の駅）事業実現に向けた取り組み ・ あしがらミツバチプロジェクト（休止中） <p>【令和2年度の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川県のもり・みず市民事業支援補助事業として森づくりとものづくり活動を以下の通り実施しました。 <ol style="list-style-type: none"> ① グリーンウッドワーク暮らしのものづくり講座「生木で作ろう！ツールづくり体験 in 西丹沢」（10月24・25日の2日間） ② グリーンウッドワーク暮らしのものづくり講座「生木で作ろう！ツールづくり体験 in 西丹沢」（11月7・8日の2日間） ③ グリーンウッドワーク暮らしのものづくり講座「足踏みろくろで作る！生木で器づくり体験」（12月19日） ・ 森林ボランティア活動 西丹沢・箒沢の森づくり活動 ・ 鹿島山北高校の森林体験活動は、新型コロナウイルス感染拡大により令和2年度は活動を中止。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
連絡先	<p>【担当者】 福島 実</p> <p>【住 所】 〒226-0013 横浜市緑区寺山町 587 番地黒滝荘 102 号</p> <p>【電 話】 045-511-7568</p> <p>【FAX】</p> <p>【メール】</p>

団体名称	丹沢環境推進会議																														
設立目的	神奈川県内に於いて、丹沢大山地域の自然環境保護保全活動を行う。 2017年4月10日任意団体として設立																														
団体情報	代表者 小林 昭五 会員数 10名 機関誌 丹沢環境推進会議だより 年3回発行																														
活動内容	<p>(1) 神奈川県内に於いて、丹沢大山地域の環境保護活動、啓発活動、人材育成活動を行った。</p> <p>(2) 丹沢大山地域の環境美化活動を行った。</p> <p>(3) 丹沢大山地域の環境検定問題づくりを行った。</p> <p>(4) 目的達成のため他団体と協力連携してボランティア活動を行った。 水質調査、登山環境意識調査アンケート活動、美化活動に協力した。</p> <p>(5) 丹沢大山登山環境意識調査アンケート冊子まとめへ協力した。</p>																														
	<div data-bbox="347 862 1382 1444" data-label="Figure"> <h3 style="text-align: center;">登山回数と登山届けの関係</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初めて</th> <th>2~9</th> <th>10以上</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>届済これから</td> <td>50</td> <td>139</td> <td>184</td> <td>373</td> </tr> <tr> <td>知らなかった</td> <td>29</td> <td>101</td> <td>71</td> <td>201</td> </tr> <tr> <td>提出なし</td> <td>29</td> <td>77</td> <td>65</td> <td>171</td> </tr> <tr> <td>記入なし</td> <td>24</td> <td>46</td> <td>48</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>132</td> <td>363</td> <td>368</td> <td>863</td> </tr> </tbody> </table> </div>		初めて	2~9	10以上	計	届済これから	50	139	184	373	知らなかった	29	101	71	201	提出なし	29	77	65	171	記入なし	24	46	48	118	計	132	363	368	863
	初めて	2~9	10以上	計																											
届済これから	50	139	184	373																											
知らなかった	29	101	71	201																											
提出なし	29	77	65	171																											
記入なし	24	46	48	118																											
計	132	363	368	863																											
連絡先	担当者 小林 昭五																														
	住 所 秦野市東田原200-109																														
	電 話 0463(82)1992																														
	F A X 0463(82)1992																														
	メール a.kobayashi4246@nifty.com																														

Ⅲ 世話人会の活動報告

令和2年度世話人会の活動報告書

1 世話人会の開催

(1) 第1回

実施日 令和2年5月21日(木)提示～6月3日(水)集約～6月10日(水)結果報告

方法 書面開催

出席者 7名

内容 ① 世話人会の年間日程と内容 ② 瓦版の発行回数と内容
③ 丹沢大山登山環境意識調査冊子発刊計画 ④ その他

(2) 第2回

実施日 令和2年8月15日(土)提示～9月4日(水)集約～9月10日(木)結果報告

方法 書面開催

出席者 7人

内容 ① 外来種調査・生き物の観察会について ② 丹沢大山ボラネット瓦版
③ 丹沢大山登山環境意識調査のまとめについて ④ その他

(3) 第3回

実施日 令和2年11月23日(月)提示～12月8日(火)集約～12月11日(金)結果報告

方法 書面開催

出席者 7名

内容 ① 令和3年度事業計画について
a 水質調査について b 講演会 c 夏休み親子自然探検隊について
d 池の外来種調査及び生き物観察会について
② 世話人会の改選について
③ その他

(4) 第4回

実施日 令和3年2月～3年3月3日(水)集約～3年3月結果報告

方法 電子文書とメールによる世話人会

出席者 7名

内容 ① 丹沢大山水質調査協力団体の承認
② 丹沢大山登山環境意識調査冊子の配布について
③ 令和3年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会について
a 日程 b 内容 c 役割分担 d その他

2 関係団体との協働

丹沢大山ボランティアネットワークから世話人会代表が各委員会へ出席

(1) 丹沢の緑を育む集い実行委員会総会

日 時 令和2年年5月

方 法 文書・郵送による総会

内 容

- ① 令和2年度事業報告・決算報告について
- ② 令和2年度事業計画・予算について

(2) 大山自然再生委員会関係

ア 第64回秦野丹沢まつり

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

日 時 令和2年4月19日（日）

会 場 県立秦野戸川公園

内 容

- ① 再生への啓発活動
- ② 丹沢の自然環境を知らせる。
- ③ アンケート活動と募金運動
- ④ その他

イ 大山自然再生委員会 幹事会

日 時 令和2年5月

方 法 書面開催

内 容 令和元年度事業実績及び令和2年度事業計画

- ① 第21回丹沢大山自然再生委員会（令和2年度総会）
- ② 令和2年度丹沢大山自然再生活動報告会について
- ③ 次期丹沢大山自然再生計画の策定について
- ④ その他

ウ 丹沢大山自然再生委員会 令和2年度総会

日 時 令和2年6月

方 法 書面決議による総会

内 容

- ① 令和元年度事業実績・決算について
- ② 令和2年度事業計画・予算（案）について

③ 報告事項等

④ その他

エ 丹沢大山自然再生委員会 第34回県民事業専門部会普及啓発検討チーム

日 時 令和2年6月～7月

方 法 書面開催

内 容

- ① グーグルアドワーズ実施結果
- ② 令和2年度自主(直接実施)事業等の予定について
- ③ 副読本『私たちのくらしと丹沢』(環境学習教材)の改訂について
- ④ かながわ環境教室等の普及啓発事業について

オ 丹沢大山自然再生委員会 幹事会

日 時 令和2年8月～9月

方 法 書面とメールによる幹事会

内 容

- ① 次期丹沢大山自然再生計画の策定に向けた意見書案
- ② 2020年度丹沢大山自然再生活動報告会の開催方法

カ 令和2年度丹沢大山自然再生活動報告会

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

キ 丹沢大山再生委員会 第36回幹事会

日 時 令和3年3月9日(火)

※ 書面+オンライン開催

内 容

- ① 令和3年度総会の開催方法
- ② 令和3年度県民部会の共催、後援イベント
- ③ 再生委員会の今後の進め方
- ④ (株)グリーンメッセージの入会

丹沢大山ボランティアネットワーク会則

(名 称)

第1条 本組織は、丹沢大山ボランティアネットワーク(以下「ネットワーク」という。)と称する。

(目 的)

第2条 ネットワークは、丹沢大山で自然環境に関する活動を実践しているボランティア団体の自主的な連携を図り、行政とのパートナーシップのもとで丹沢大山の自然環境の保全に関する活動の推進を図ることを目的とする。

(会 員)

第3条 会員は目的に賛同するボランティア団体により構成する。
2 入会及び退会は、所定の書面による届け出とする。

(活動内容)

第4条 ネットワークは、次の活動を行う。
(1) ネットワークづくりの推進に必要な活動の実施
(2) 会員への情報提供および会員相互の情報交換の推進
(3) その他、ネットワークの目的に合致する活動

(世話人会)

第5条 ネットワークの運営のため、世話人会を設ける。
2 世話人は総会によって選出し、10名程度とする。
3 世話人会に代表1名と、副代表2名を置き、選出された構成員の中から互選により定める。
4 世話人会は代表が招集し、議長となる。
5 副代表は代表を補佐し、代表に事故ある時は、その職務を代行する。
6 世話人の任期は2年とする。ただし、再選は妨げない。
7 世話人会は、必要に応じ開催する。

(世話人会の職務)

第6条 世話人会は次の事項を行う。
(1) 会員間の連携の推進に必要な連絡、調整
(2) 各種情報の収集、分析
(3) 行政とのパートナーシップの推進のため必要な神奈川県自然環境保全センターとの協議
(4) 総会に付議する議案に関すること。
(5) その他、ネットワークの運営のため必要な事項

(総会)

第7条 総会は、世話人会代表が召集する。
2 総会は、年1回以上開催する。

- 3 議事は、出席者の過半数をもって決定する。
- 4 議決権は1団体で1票とする。

(事業年度)

第8条 事業年度は、4月1日から翌年3月31日迄とする。

(会費)

第9条 会費は毎年4月1日から翌年3月31日迄の1年間とし、年間2,000円とする。

(庶務)

第10条 丹沢大山ボランティアネットワークの必要とする費用は、会費および助成金、その他の収入をもってこれに充当する。

- 2 会計担当者を2名以内置く。
- 3 監事を2名置き、会務および会計を監査する。
- 4 ネットワークの庶務は、当分の間、神奈川県自然環境保全センターが協力して行う。

(その他)

第11条 この会則に定めるものの他、ネットワークの運営に必要な事項は、世話人会で協議して定める。

- 附 則
- 1 この会則は、平成14年8月4日から施行する。
 - 2 この会則は、平成15年4月5日から施行する。
 - 3 この会則は、平成19年4月8日から施行する。
 - 4 この会則は、平成20年4月6日から施行する。
 - 5 この会則は、平成31年4月20日から施行する。

丹沢大山ボランティアネットワーク入会届

年 月 日

丹沢大山ボランティアネットワーク
世話人会代表 様

丹沢大山ボランティアネットワークに入会しますので、入会届を提出します。

団 体 名
住 所 〒
代表者 氏名
〃 住所 〒
担当者 氏名
(連絡先) 住所 〒
〃 電話
〃 ファックス
〃 E-mail

団体の概要記入欄

設立時期	
会員数	
会報	<input type="checkbox"/> あり (名称:) <input type="checkbox"/> なし
ホームページ	<input type="checkbox"/> あり (アドレス:) <input type="checkbox"/> なし
保全活動に関するキーワード	<input type="checkbox"/> 美化活動 <input type="checkbox"/> 植樹、森林の育成 <input type="checkbox"/> 調査 (内容:) <input type="checkbox"/> 普及啓発 (内容:) <input type="checkbox"/> その他 (内容:)
活動の概要	主な活動地域 ()
自由記載欄	
連絡方法	<input type="checkbox"/> 郵送 <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> ファックス <input type="checkbox"/> E-mail

注 1 該当する□にチェックをしてください。

2 内容については、丹沢大山保全活動ホームページに掲載します。

丹沢大山ボランティアネットワーク退会届

年 月 日

丹沢大山ボランティアネットワーク
世話人会代表 様

丹沢大山ボランティアネットワークを退会しますので、退会届を提出します。

団 体 名
住 所
代表者 氏名
〃 住所

退会理由：

編集・発行

神奈川県自然環境保全センター

厚木市七沢 6 5 7

電話 046-248-0323